

平成30年度第1回酒々井町産業振興推進会議 議事録

日 時: 平成30年7月24日(火) 10:00～11:20

場 所: 酒々井町役場分庁舎2階第2多目的室

出席者: 大谷文男委員、小坂明宮己委員、織田孝志委員、篠崎慎一委員
中里悦子委員、太田謙一委員、関篤史委員
(事務局)経済環境課長、経済環境課事務局

- 会議次第:
1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 委嘱状交付
 4. 新委員紹介
 5. 議 題
 - (1)生産性向上特別措置法に係る導入促進基本計画の同意について(報告)
 - (2)課題の整理と掘り下げについて
 6. その他
 7. 閉 会

(会議要旨)

1. 開 会

2. 会長あいさつ

引き続き皆さんと一緒に、課題解決に向けて各方面の意見の吸い上げを行うとともに解決策の議論を進めていきたい。

3. 委嘱状交付

4. 新委員紹介

- ・株式会社千葉銀行酒々井支店長 中里悦子様
- ・株式会社京葉銀行酒々井支店長 太田謙一様
- ・千葉県商工労働部経済政策課主幹 篠崎慎一様

事務局から会議の定数報告。

定数12名のうち7名出席があり、過半数以上の出席となり会議は成立。

相本委員、大網委員、石渡委員については所要により欠席。

なお、傍聴人はなし。

5. 議 題

(1)生産性向上特別措置法に係る導入促進基本計画の同意について(報告)

(事務局から報告)

- ・生産性向上特別措置法が平成30年6月6日に施行。
- ・支援スキームは、「導入促進基本計画を策定した市町村内において、中小企業等の事業者が、商工会や地域金融機関などの認定経営革新等支援機関の事前審査を受けた先端設備等導入計画を作成し、市町村の認定を受けると、設備投資分の固定資産税の特例税率の適用や各種補助金審査時の配点の加点などの支援措置が受けられる。」というもの。
- ・町では導入促進基本計画を策定し、6月8日に国の同意を受けた。
- ・これにより、町内全域・全業種を対象に先端設備等導入計画の提出が可能となった。

(会長から)

支援機関や金融機関等で周知や活用アドバイスを行い、やる気のある地域企業を伸ばしてほしい。

(意見・質疑等)

- ・不慣れな場合は申請方法がわかりづらい。どのように周知をはかるかが課題。
- ・事業者の思いとやかにマッチさせていけるかが重要。積極的に活用していきたい。
- ・補助金の審査時加点措置をいかにうまく使えるか。積極的な働きかけをしていく必要がある。

(2) 課題の整理と掘り下げについて

(委員意見等)

○雇用面の課題について

- ・他自治体では、ハローワークや都道府県との連携で、UIJターンの取り組みとして帰省した大学生等への就職アプローチを実施している。ノウハウの支援なども実施。
- ・町単独での雇用対策事業は厳しいものがあるのではないかと。
- ・酒々井は都心部や成田空港など、大規模雇用のある場所と距離的に近いので、雇用する上では厳しい部分がある。企業が雇用確保に割くコストも上昇する。人はいるはずなのだが難しい。
- ・たとえば高校生向けアプローチでは進路担当の教員対象で各企業を紹介する等も考えられる。
- ・奨学金学生の返済補助をする企業に対し、補助金を交付する自治体もある。学生に対して暖かみのある企業を支援するという方向性。
- ・建設業では人手不足が顕著であるが、限定した話ではなくどの業種も厳しい。
- ・技術が必要な仕事は経験も必要。そういった人材を発掘し確保するのは非常に大変だ。
- ・人口減社会であるので合理化や機械化を進めないといけない。たとえば重機オペレーターの無人化など。経費は掛かる。
- ・外国人雇用について。日本人相手となると、お客様の応対で意思の疎通が難しい部分も出てくる。サービス要素の強い部分を日本人が行い、そうでない部分を外国人が受け持つなど、作業分担することも一つの手段。
- ・高齢者の中にもまだまだ元気に働ける方はたくさんいると思う。
- ・就職前の意識づくりも重要。学校授業等で酒々井町についての学習をする中で機会を広めていくのもよいと思う。
- ・何らかの活動をはじめ、継続的に実施することが大事。
- ・町単独ではなく、ハローワーク等との連携で事業化するのが良いのではないかと。
- ・各企業とも努力している中でも苦戦が続いている。

○経営全般の課題について

- ・生産性向上、創業支援、補助金の使い方、事業承継等、様々な課題がある。
- ・事業承継は優遇税制が設けられたり、特に小規模事業者についての支援は厚くなってきている。
- ・農業についても事業承継は喫緊の課題と考えられる。全体で考えていかなければならない大きな課題。
- ・補助金については、商工系については国で用意している各種補助金をうまく使っていけるとよい。商工会や金融機関とも連携して周知を拡大していきたい。
- ・創業支援については、商工会が先頭に立ってやっていかなければならない。
- ・生産性向上については、人手不足を踏まえつつ行う方法を。たとえばAIやITの活用。
- ・経営課題については事業者ごとに違ってくる。どの項目も個別企業の取り組みの中で支援措置をうまく活用していく方法を第一に考えたい。

○連携面での課題について

- ・各事業者と支援機関が情報共有して連携する中で、だんだんと結びつきは強くなる。
 - ・多様な変化に事業者、特に小規模事業者や農業者がついていけないというのが実態なので
- は。
- ・町や各支援機関が足並みを揃えて窓口機能を構築・向上していく必要がある。

(意見・質疑等)

- ・いずれは会議としての意見を取りまとめていくと思うが、現在、地域企業等の声はどのように吸い上げているのか。
 - ・今は意見の吸い上げがうまくいっていない。
 - ・難しい部分もあると思うが、やはりまずは地域企業等の意見を聞くところが大事。
 - ・酒々井は規模の小さい町で、機動的に動きやすいところが強みでもある。うまく特性を活かしたらよいと思う。
 - ・連携に関して。他自治体の先進的な取り組みを知ることも大事。
 - ・県では、地域振興事務所単位で「市町村ラウンドテーブル」という意見交換の場を設けている。自治体職員や商工会担当者が対象。
 - ・よい事例があれば横展開につながるとよい。うまく共有できれば。
-
- ・事業承継について。廃業率の年次経過などは把握できるのか。
 - ・町の統計でも個別企業の開廃業は数字として表れない。実態と数字が合わない部分もあり、つかみ切れていない。
 - ・課題解決のためには数字があると考えやすい。感覚的な部分もちろん大事ではあるが。

(事務局から)

町では、今年度下期に「酒々井町IT活用・販路開拓等支援事業」を商工会と連携して実施する。とりわけ小規模事業者などでは、一人で仕事をなんでもこなしている状況で、IT活用などに割く時間がなく、導入に向けた取り組みが行いづらいことから、支援員を配置し個別企業の訪問を行い課題抽出、課題に応じて専門家派遣を行いIT導入を促進していく取り組みとなる。国のIT補助金の申請件数増加を期待している。

6. その他

特になし

7. 閉会